

地域高規格道路松本系魚川連絡道路意見交換会まとめ

市町村名	大町市	
開催日時	第1回 9月 26日(水) 第2回 10月10日(水)、11日(木) 第3回 11月 5日(月) 合同報告会 11月22日(木)	
項目	意見・提言等	
1. 道路行政全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高速道路のない地域を補完すべく地域密着型の道路とし、併せて安全並びに利便性を考慮する ・ ルートを決める際には市民の意見を反映させてほしい。 ・ 有料道路として建設費の負担をしてもらう。 ・ 「いいか」「悪いか」の判断が出来ない。情報公開、資料提供を徹底して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模の事業をおこなう場合には、一般の企業や個人が多方面より事業の検討する必要がある。 ・ 老人介護や社会福祉など、ほかの分野のインフラ整備との関連性。税金の使われ方について検討の必要性を感じる。当然の権利であるインフラ整備について真剣に考える必要がある。 ・ 高規格道路建設計画は総合的なインフラ事業であるため、道路のみを捉えて発言することは難しい。
2. 地域の課題、問題点 (まちづくり、自然、生活)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小谷以北はR 1 4 8号のみで代替道はない。大系線も時間がかかり、本数も確保されていない状況である。 ・ 高速交通網から取り残され、経済的な面で遅れをとっていると感じる。 ・ 高速ネットワークから取り残されていることで地域の衰弱を招きつつある。 ・ 産業道路として整備されている道路が無いので生活道路を大型車が通行し、交通量も増加している。トラック、バス、観光地に向かう乗用車の、排気ガス、騒音(特に夜間)がひどい。また、高瀬川右岸道路は事故が多く危険である。 ・ インターからの距離が遠いので観光誘致が難しい。地場産業等の振興が大きく阻害されている。 ・ 人口の流出が加速度的に進み、大町の伝統的文化の存続が危ぶまれている。 ・ 自然は残っても、町並みと活力を喪失した地域になりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知事は住民の意見を聞くふりをして自分の好きなようにやってしまう。 ・ 調査路線を設定し、整備することを前提に進めていたにも係わらず、事業を再度見直しすることに疑問を感じる。
3. 道路の必要性 (建設の是非)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と高速道路とを接続すれば移動スピードが上がり、広域的な物流、企業誘致、観光、人口増等の促進可能。また、交通がスムーズになり経済効果が有ることは新潟の例で実証済みである。 ・ 全国にアクセスするネットワークの一部であり、国民全体が利用する施設として必要。 ・ 大町の将来に必要である。孫たちへも資産として残すことができる。 ・ 災害時等のライフラインの確保が必要。災害時に重機を搬入するのに幅員が狭く不便である。 ・ また、高齢化が進んでいるため緊急時の病院までの高速交通網ネットワークとしても必要。 ・ 高規格道路の建設により利便性の高い交通手段を得ることができる。 ・ 北アルプスの出入口として開発し、観光誘致も可能となる。 ・ JRが廃止になった場合必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高規格道路の建設により、この地域にどれだけの収益があるのか。労働人口の増加も一時的なものでしかない。また建設費も大手ゼネコン・銀行に流れ地元の建設業には僅かしか落ちない。負債額の増加に終わる可能性がある。この道路の費用便益についてもっと検討すべきだ。 ・ 小谷白馬地区においては、現国道が市町村道となる公算が大きく維持管理費など、財源負担が増す。 ・ 道路整備計画や他の事業との一体的整備に緊急性を感じない。社会全体の将来を想像した当該道路のあり方について疑問を感じる。少子化も進むと思われる。 ・ 人が流出し、単なる通過点となる恐れがある。地域に魅力があり、人の流入が増え、道路が必要になるという状況にすべきである。 ・ 環境問題が大きなネックになり整備が難しいと思う。
4. 整備手法、ルート案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内等はゆっくり通過し、景観を楽しめるオアシスの要素のある道路。郊外は高速移動可能なルートを整備したい。 ・ 北アルプス縦貫道路案も考慮し、全国にアクセスする交通ネットワークの一部として考えたい。具体的には豊科インター起点で、豊科 - 大町 - 小谷へのルートを望む。 ・ 小谷、白馬、糸魚川を優先して整備したい。 ・ 高瀬川左岸に一方通行から作れば早期に整備可能である。 ・ 歩行者は地下道を通るのが大変(特に老人)なので、車がアンダーパスするように設計する。 ・ 防音壁が反射した音を、反対側の木で吸収する等の環境対策を行う。景観的にも良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渋滞の予想される路線において、上下一車線の道路を上下合わせて三車線にし、予想される渋滞時間のみ片側一車線、反対車線を二車線にする等の生活道路の改修や拡幅工事で充分である。既存道路のマネジメントを主とした道路改修で対応し、必要性もその範囲にとどめるようにする。新たに道路建設する必要はない。 ・ 大町市以南、特に安曇野では道路建設の緊急性、必要性は無い。 ・ 地域的に問題がある。フォッサマグナの西縁、蒲原沢等県レベルでは、工事が出来ない。 ・ 道路に多額の投資をせず福祉や教育、医療に使った方が良い。
5. 今後の進め方について (住民参加、広報、情報提供、合意形成)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県に高規格道路のメリット・デメリットを明確に示してほしい。ルートも明らかにしてほしい ・ 行政は、住民参加による公共事業評価基準を策定した上で意見聴取機関を設置し、開かれた合意形成の手続きを踏んで結論を示すべき。 ・ 市民の意見をまとめるにはアンケートや署名が必要である。 ・ 将来の広域合併も視点に据え、計画・実行することを望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県はこの道路のデメリットについて一つ一つ細かな点を見直し、公表する必要がある。 ・ 松本・波田起点で始まったが豊科起点変更の根拠とはなにか明確にして欲しい。また、調査区間の変更が出来るのか知りたい。松川村においては調査区間を小谷に移してもらいたいと、議会でまとまっている。起点をどこにするか明確にしてほしい。
6. 意見交換会について	<ul style="list-style-type: none"> ・ この意見交換会で出された意見が、計画や地域社会に対してどのような形で反映されるのか疑問である。 ・ 今後事態の推移に応じて内容を公開し広く民意を反映し対処されることを要求する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国でも県でも財政を司るシステムに、問題があるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの地域には既に高速道路が来たから、これから作る松本系魚川道路に反対するのは随分虫のいい話である。